



新たな計画のスタートに当たって

当所の運営に対する日頃からのご協力に対して改めて御礼申し上げますと共に、今年度もご指導ご鞭撻方よろしく
お願い申し上げます。

さて、仙台市におきましては、今年度を初年度とする「仙台市障害者保健福祉計画」(H.30~35)及び「仙台市障害福
祉計画」(H.30~32)がスタートします。計画に盛り込まれた施策及び事業が“絵に描いた餅”にならないよう、行政機
関には着実に具体化を図って頂くと共に、私共もサービスの質の向上を図りながら、仙台市の障害者施策の発展に官
民協働で努力していかねばなりません。

一方、国における2018年度障害福祉サービス等報酬改定において、全体では0.47%の増額が行われたことを評価す
る声も聞かれますが、個別に見ていきますと、例えば「就労継続支援B型事業」の基本報酬が平均工賃でランク付け
されることにより、大幅な減収になる事業所が出てくるのではとの懸念が起きています。高い工賃を目指すことその
ものは大事ですが、こうした「成果主義」の強化は、障害の重い方が就労の場から遠ざけられる可能性も秘めており、
事業所の経営と併せて深刻な問題です。

また、新たな施策である「日中サービス支援型共同生活援助は“ミニ施設ではないのか”」や「共生型サービスは
“障害福祉と介護保険の一元化の布石では”」との意見もあります。

相談支援事業においても、相談支援専門員1人当たりの標準件数やそれを超過した場合の減算制度が導入されまし
たが、今でも計画相談に応じられない場合が多い中での導入は、必要な支援が受けられない人がますます増えるの
ではないでしょうか。これを機会に、相談支援体制の抜本的見直しと強化が必要です。

障害福祉を巡る環境は厳しいものがありますが、仙台市には官民協働の下に多くの先駆的な施策・事業を作り出し
てきた経験があります。そうした経験を活かしながら、新たな計画がすべての市民にとってより良い地域社会を作り
出すために推進されることを期待します。

平成30年4月

宮城野雲母倶楽部+らiふ
施設長 秋保 明

投稿コーナー

このコーナーでは利用者の皆様のお声を載せていきます！

ペンネーム・そらさんの体験談から見えないつらさや不便さ、
だれにでも起こり得ることであること、どのように乗り越え
今の方がいるのかを伝えていきます。

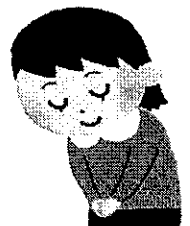
そらさん No.3

朝、目覚めると強い孤独感を感じ、その後何時間も歯を
食いしばって憂鬱に耐える日が増えてきました。寂しさは
薬で解決しないとわかっているにもかかわらず飲んでしま
います。心の傷も出てきてつい人にメールで苦を漏らして
独りになってきた気もします。長年病んでいると明るい話
題も思いつかず人づきあいが難しくなりました。一番の不
安は自分の人生の最後に親しい人が誰も側にいないのでは
ないかという事です。外国では孤独担当相が誕生しましたが
、日本では孤独に対する深刻さに気がつく人はいるので
しょうか。孤独が最も人をだめにします。健康な家族もな
い人達の苦悩はいつどうやって解決できるのでしょうか。

【お知らせ】

ゴールデンウィーク中の相談体制に
ついて

- ◎電話相談のみ
4月28日～4月30日
- ◎通常通り
5月1日、2日
- ◎電話相談のみ
5月3日～5月6日
- ◎通常通り
5月7日～



*サロン活動も4月28日～4月30日、5
月3日～5月6日はお休みします。

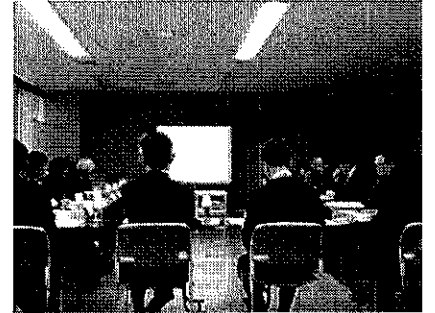
平成 29 年度 宮城野区障害者自立支援協議会

全体協議会



平成 30 年 3 月 7 日に、宮城野区障害者自立支援協議会 全体協議会が開催されました。

事務局から平成 29 年度の活動報告を行い、委員の方々に報告を受けてのご意見や協議会に期待することが議論されました。



* 委員の方々から挙がったお話を抜粋しました *

○高齢の親・障害の子の世帯

親の支援のため訪問すると支援につながっていない障害のある子どもと一緒に生活しており、そこから初めて支援につながる場合があります。長年親が家族の中で抱え込み子どもを世話してきたこともあり、子どもは 40 代 50 代となっても社会との接点がない場合があります。親も高齢となり、親亡き後の生活が課題になってきます。早期発見・介入のために地域包括支援センターと障害者相談支援事業所との連携が重要な役割を果たします。

○切れ目のない支援

児童～成人～高齢まで一貫した支援が望まれます。障害福祉サービスから介護保険へ移る際に制度の違いにより、同等のサービスを受けられない状況となるなど、スムーズに移行できない場合があります。就学前・学童・成人・高齢へと移行していく際に、その時に必要な支援が受けられるよう、または制度や支援体制・環境の変化により本人の生活が変わらないよう、分野にとらわれず多種多様な支援者の連携が必要となります。

○障害(者)理解

障害者間の障害理解が薄く、障害者間でも偏見があるようだと当事者の方からお話がありました。また、見えない障害に対して周囲から理解が得られないことの苦勞もあります。

発達障害の方が増えてきているなか、手帳の取得に迷われている方も多いようです。手帳取得により障害者というレッテルを貼られるとためらう方もいます。取得することによりご本人が守られることもあります。支援の輪が広がるのだというプラスのイメージを持ってもらうために、支援者間で協力し、本人に寄り添った支援をしていく安心感を土台として作っていくことが大切です。



8050(はちまるごーまる)問題とは？

「8050(7040)問題」とは、「何等かの病気や社会での生きづらさを抱え、自宅にひきこもる生活の長期化により、本人と親が高齢化し、支援につながらないまま周囲から孤立してしまうこと」です。ある地域では、二人暮らしの 80 代の母親と 50 代の娘が自宅で亡くなっているところを発見されたニュースがありました。娘は長年ひきこもり状態であったと言われていました。母親が先に亡くなり、一人になった娘は誰にも助けを求められずに衰弱し亡くなってしまいました。このケースのように社会的に孤立していることが多く、問題が発覚した時には命に係わる状況であるなど、待たなしの状況になっていることが多いです。社会的に孤立させないよう地域ぐるみでの見守りが重要な役割を果たします。地域住民、地域の支援者等が協力していくことが大切です。

今年度も宮城野区障害者自立支援協議会では、「障害のある人もない人もその人らしく生活できる地域づくり」を目指し、皆様と共に企画や運営をしていきたいと考えています。今後ともご協力よろしくお願いいたします。